

今後の水資源政策のあり方について ～「幅を持った社会システム」の構築（次世代水政策元年）～ 中間とりまとめ【主な内容】

1. 諮問の背景

戦後高度成長期の急激な水需要にキャッチアップするため水資源開発促進法に基づき水資源開発を実施

現行制度の下で、水資源開発基本計画（フルプラン（目標年次：平成27年度））に示す供給目標は一部を残しつつも概ね達成

顕在化してきた様々な課題への対応が迫られている

- ・東日本大震災、笹子トンネル事故後のインフラ整備・管理についてのパラダイムシフト
- ・雨の降り方などが局地化・集中化・激甚化してきている地球規模の気候変動リスクへの対応
- ・人口減少、少子高齢化、世帯構成、節水型都市づくりなど社会的環境の変化
- ・低炭素社会の構築、安全でおいしい水の確保、水循環系の構築など社会からの要請
- ・世界では、依然として約8億人が安全な水の供給されない状況や、洪水・干ばつが頻発しており、我が国の国際貢献のプレゼンス強化や、水インフラ技術の競争力の強化

水資源に関する制度の再構築と新たな展開軸による計画策定

2. 今後の水資源政策のあり方

2-1. 基本的理念 ～水の恵みを享受できる社会を目指して

安全で安心できる水を確保し、安定して利用できる仕組みをつくり、「水の恵みを未来にわたって享受することができる社会を目指す」ことは、私たちの普遍の理である。

理念を実行するにあたっての考え方（～幅を持った社会システムの構築～）

- ・我が国は、災害に脆弱な国土であるにもかかわらず、高い労働生産性を維持
- ・個別最適を図り、効率性追求し、社会全体が高度化・効率化された状態を維持・継続
- ・東日本大震災などシステム全体が機能不全・麻痺・途絶に陥ったことを経験
- ・「個別要素（個別最適）」と全体システム（全体最適）」の両立を目指すことが必要
- ・何が起きてても対処でき安全・安心を実現する「幅を持った社会システム」の構築が必要

2-2. 今後の水資源政策を考える3つのポイント

幅を持った社会システムの構築

- ・いかなる事態が生じて、柔軟かつ臨機に、包括的に対処することのできる「幅を持った社会システム」の構築を目指す。

重層的に展開

- ・従来からの施策を一義的に否定するものではなく、これまで実施してきたそれらの施策の継続・強化と新規施策をその必要な量的・質的両面から重層的に展開する。

次世代水政策の実行

- ・次の世代、未来の世代に、「水の恵みを享受できる社会」を着実かつ確実に引き継いでいけるよう、基本的・長期的方向性を示す変曲点、今こそ「次世代水政策元年」として取り組む。

2 - 3 . 今後の水資源政策の3つの改革の視点（ハイリスク、マルチポリシー、グローバルイゼーション）

低頻度・高リスクへの対応<ハイリスクへの対応>

- ・大規模災害やゼロ水等の発生頻度は低いが国民生活や社会経済活動に多大な影響がある事象に対応し、最低限必要な水を確保。

国民の視点に立った重層的展開<マルチポリシーによる対応>

- ・安定的な水需給バランスの確保に加え、水インフラの老朽化対策、安全でおいしい水の確保、健全な水・エネルギー・物質循環系の構築、持続的な水利用、教育・普及啓発などに着目し、重層的に取り組む。

国際貢献と海外展開<グローバルイゼーションへの対応>

- ・世界の水問題の解決に向け、積極的な国際貢献と水関連技術の海外展開を推進。

2 - 4 . 5つの水資源政策と15の具体的取組

1) 安全・安心水利用社会 6

大規模災害時等危機時の必要な水の確保

- ・危機時に一部の水インフラが機能しなくなったとしても、国民生活や社会経済活動に最低限必要な水を確保。

水インフラの老朽化への対応

- ・老朽化対策を長寿命化計画に基づいて着実に実施し、施設管理者が施設を良好な状態に保つための方策。

気候変動リスクへの適応策

- ・水需給に関する気候変動への適応策を検討し、総合的・計画的に推進。

ゼロ水（危機的な湯水）への備え

- ・水源が枯渇し国民生活や社会経済活動に深刻かつ重大な支障が生じる「ゼロ水」に至らないための方策の検討。

水需給バランスの確保

- ・水供給の安定性について戦後最大級湯水の年まで含め適正に評価。将来の水供給の安定性についても配慮。

安全でおいしい水の確保

- ・水質改善や水質リスクの低減に資する取組を計画的に促進。

2) 持続的水利用社会 4

住まい方等に着目した節水型社会の構築

- ・エンドユーザーの具体的な水利用行動に反映されるよう水を大切にする意識や目的の共有。
- ・住まい方やまちづくりに着目した節水型社会の構築を計画的に促進。

地下水の総合的管理

- ・関係機関等の連携のもと、代替水源、地盤沈下の防止、地下水熱利用などの取組を計画的に推進。

雨水・再生水の計画的な利用

- ・利用形態に応じた技術基準や規格の標準化。再生水は重要な水資源となりつつあり、計画的な活用を推進。

水源地域への感謝に根差した振興対策

- ・水源地域の人々に対する共感と感謝を持って、上下流交流や、地域づくりの担い手により実施される地域活性化の取組を推進。

3) 健全な水・エネルギー・物質循環に立脚した社会 3

健全な水循環系の構築

- ・流域全体を視野に入れ、水量と水質、平時と緊急時を併せた総合的な対応について関係者間で認識を共有するとともに、対応力を大きくしていく。
- ・水循環計画の作成、実施、フォローアップ、計画の見直しがより一層推進されるよう、参考となる知見を国がとりまとめ、全国で共有するとともに、関係機関等の連携を図るための取組を推進。

低炭素社会に向けた取組

- ・CO₂を排出しない水力発電の特徴や、利用可能な水の位置エネルギーの有効利用の観点から、各水系の状況を踏まえつつ小水力発電を含む水力発電について取組を促進。
- ・バイオマスのエネルギー利用及びリンの回収等、低炭素社会に資する資源の有効利用を計画的に促進。

水環境・生態系の保全・再生

- ・水利用の過程において、豊かな生物多様性の保全が図られるための取組を計画的に推進。

4) 教育・普及啓発による水の「恵み」に感謝し「災い」に柔軟に対応できる社会風土・文化の醸成 1

長い年月の中で醸成されてきた「水文化」に日常的に触れる機会を生み、自ら考える契機を作り出すとともに、「教育」や「学習」の取組について、地域の状況に応じた具体的方策を検討し、計画的に推進/知識や経験を伝えるインタープリターとなる人材の育成に努め、工夫を図ることによって活動の裾野が自ずと広がることを目指す

5) 世界の水問題解決や水関連技術に関する国際社会におけるプレゼンスの確立 1

我が国がこれまで築いてきた国際社会でのプレゼンスをさらに強化し、世界的な水問題の解決に向けた取組に貢献/官民の強みを活かした連携やノウハウ・経験の共有等、海外における円滑な事業展開やリスク軽減を図る取組を推進/「チーム水・日本」として産・学・官・NPO等が一体となり、国際貢献と国際市場の獲得に向けた重層的な取組を推進

3. 最終とりまとめに向けて

最終とりまとめに向けて更に議論を深め、特に以下の点について関連制度及びフルプランのあり方、今後の水資源政策に向けた具体的な取組を検討していく。検討に当たっては、厳しい財政状況の下、優先順位を付けた効率的な取組となるよう努めていく。

大規模災害時等危機時における既存施設の有効活用を含む水供給・排水の全体システムについてゼロ水など、発生頻度は低い社会的影響の大きいリスクに対する危機時の水需給に関する対応のあり方について

水資源政策の様々な課題に対して取組の重層的な展開が図られることについて

水インフラの老朽化対策として、施設管理者が施設を良好な状態に保つことを促進するための方策について

世界の水問題解決と国際市場獲得に向けた展開として、海外における円滑な事業展開を行うための取組やリスク軽減を図るための取組を促進する方策について

ICTの進展を始めとする技術革新に対応した水資源管理や水供給システムのあり方について